

回復の兆しが見られる米国ベンチャー投資

- ・90年代における米国経済の力強い成長の原動力とも言われた ベンチャー企業への投資に回復の兆しが見られている。米国ベンチャーキャピタル協会によれば、ベンチャーキャピタル（VC）によるベンチャー企業への投資額は2003年通年では3年連続で前年を下回ったが、四半期ベースで見ると、同年第2四半期に3年ぶりの前期比プラスとなり、その後も安定的に推移している。
- ・この背景には、NASDAQ指数の持ち直しとともにベンチャー投資資金の出口部分のIPO件数が下げ止まり、また、入口部分であるVCファンド組成額が2003年は前年を上回る（91108億ドル）など、ベンチャー投資の資金サイクルが活発化しつつあることが指摘できる。
- ・最近のベンチャー投資の特徴をセクター別にみると、金額ベースでは、ITバブルの崩壊を受けて通信をはじめとしてIT関連のウェイトが総じて低下する一方、バイオ、医療機器といったライフサイエンス分野が増加している。特に、直近2四半期ではバイオのシェアが長らくトップを占めてきたソフトウェアを上回っている。

図1. NASDAQ指数

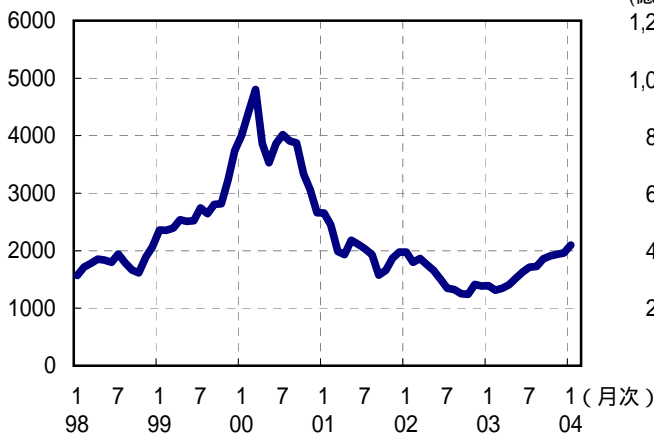


図2. VCによるベンチャー投資推移

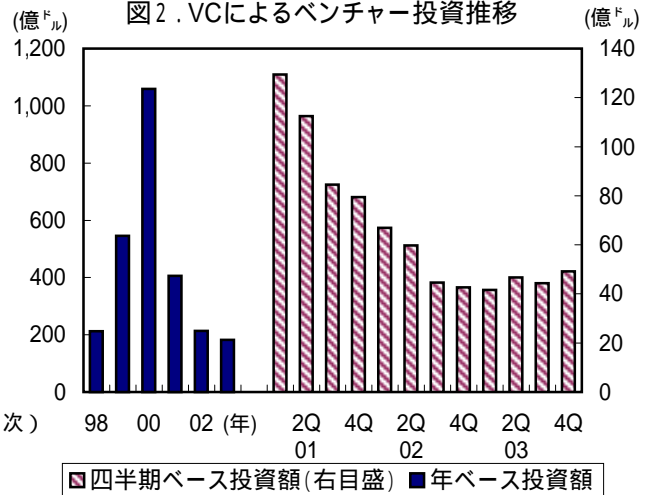


図3. ベンチャー企業のIPO及びM&A件数推移

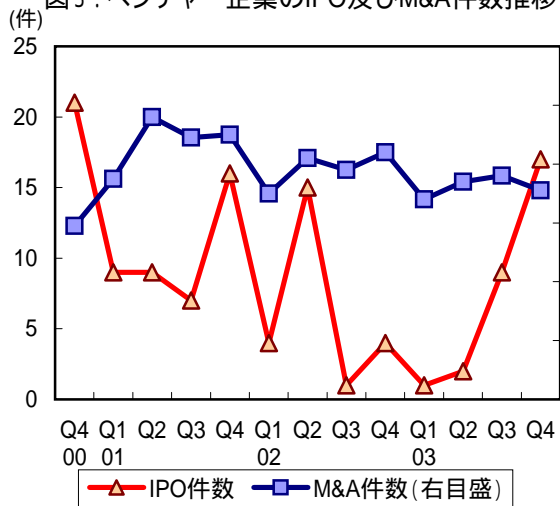
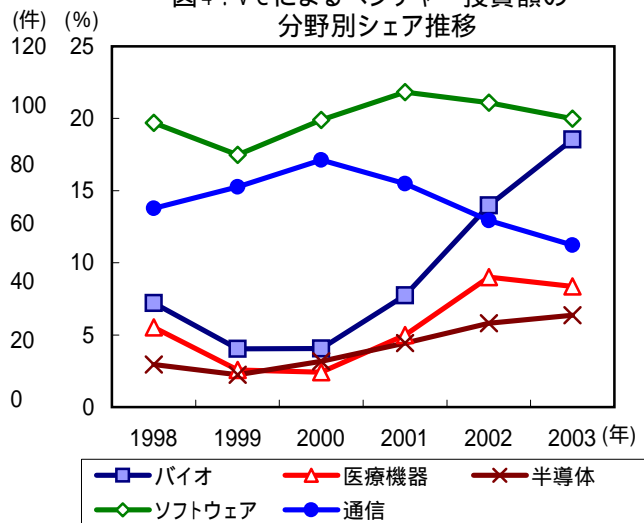


図4. VCによるベンチャー投資額の分野別シェア推移



(備考) The Money Tree™ Survey by PricewaterhouseCoopers, Thomason Venture Economics and National Venture Capital Association資料及びNASDAQ資料により作成。

【調査部(産業・環境調査担当) 増田真男】

お問い合わせ先 日本政策投資銀行調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.go.jp